

平成 20 年度第 1 回評価委員会 (H20.7.24)
 主な意見とその対応

委員意見	法人の回答・今後の方針
(1) 財務諸表及び利益 (損失) 処理関係	
<p>決算報告書における教育研究経費の予算額と決算額の差異について、その理由を当初予定していた常勤教員の退職者の補充を延期したこと等によらしているが、これは改善結果によるものか、それとも退職者の補充ができなかったためか。</p>	<p>退職者補充ができなかったためである。</p>
<p>剰余金発生理由は何か。</p>	<p>収入が増えたためである。特に、入学定員増により、入学金及び授業料収入の増や、外部資金の増が大きい。また、支出面では、予定価格より安価で契約できたものがあるため。</p>
<p>収容定員に対する在籍者の割合が大学全体で 110% を超えているが、国の基準としてはどの程度まで許容されるのか。</p>	<p>大学の外部評価を行う機関である大学基準協会の大学評価基準では、各大学への是正助言の基準を、分野別ではあるが定員充足率 120% を超える場合としている、と認識している。一方、文部科学省が私立大学に対する助成金カットを行わない場合の限度、また国立大学から運営費交付金を返還させる場合の基準は、定員充足率が 130% を超える場合であったと思う。</p>

(2) 業務実績評価関係	
<p>法人化後3年目となるが、事務職員は県からの派遣となっている。可能であれば、大学全体の運営を企画する部門などではプロパー職員の育成を図る必要があるのではないか。</p>	<p>法人固有の事務職員の採用、育成に関しては、どのポストや部門を対象とすべきかなど、様々な視点から検討しているところである。</p>
<p>管理栄養士養成は熊本県立大学の強みとして、さらに深化させてほしい。</p>	<p>管理栄養士の養成について、強い部門をより強くするということが、国家試験合格率も重要と認識しているが、まだ満足するところに至っていない。また、合格率だけでなく、学問と研究全体の拡がりということも考えながら進めていきたい。</p>
<p>統計処理など社会分析能力が必要な時代となっており、関連する科目を必修にしてはどうか。</p>	<p>関連科目の必修化については検討したい。</p>
<p>受講科目に対する学生の関心度に差があり、それが受講態度にも影響するため、大学側から科目選択のパターンを示すなど、もう少し積極的に関与してほしい。</p>	<p>本学では、学部、学科、コース別に履修モデルを提示し、履修指導に当たっている。また、GPA制度を導入し、厳格な成績評価に取り組んでおり、安易な履修登録を抑止している。科目選択の支援としては、今後、キャリアデザイン教育の一環として、科目選択の仕方、選択することの意義等について指導していきたいと考えている。</p>
<p>「もやいすと」育成プログラムの活動においては、経済学やマーケティング等関連科目との連携も必要。</p>	<p>現時点での回答は難しいが、「もやいすと」育成プログラムは、教養教育、特に初年次教育に力点を置いた取組と位置づけている。専門教育との繋がりの中で、また包括協定先と連携していく中で、総合的に検討したい。</p>

<p>海外視察、学会発表等の成果を地域の方にフィードバックしていくことの検討を。</p>	<p>教員が海外で研究したことは、できるだけ学内あるいは地域に還元できるようなシステムを考えていきたい。なお、留学した学生に対しては、講義の中で在學生に報告する機会を設けている。</p>
<p>教育の質を高める手立てとして、C A P制度の導入について検討を。</p>	<p>C A P制度については、G P A制度との関連で学習時間の確保という観点から、現在検討しているところ。</p>
<p>教員個人評価制度及び評価結果の活用法については課題も多いため、慎重に検討していただきたい。</p>	<p>学部毎に事情も違い、教学側の問題として導入が可能かどうか整理をしたうえで考えていきたい。ただ、評価結果の活用法としては、直接給料に反映するというよりはむしろ、研究費や教育に関する活動資金の増額等につなげる形の方が重要であると考えている。</p>
<p>業務実績報告書には、実施したことだけではなく、実施した結果や効果といったアウトカム的なところも加えていただきたい。</p>	<p>エビデンス（根拠資料）としては整理しているが、その事業がどの程度効果があったか等について、出来るだけ業務実績報告書の中に盛り込むこととして、分かりやすい表現に努めていきたい。</p>
<p>科学研究費補助金の申請について、申請書類を作成する過程で教員自らが自分はどういう研究をどの規模でいつまでに行うかなど自分に問いかけながら作成するので、申請すること自体に意義がある。</p>	<p>評価委員会でそのような意見があったことを教員へ明確に伝えていきたい。</p>